



現代美術 艸居

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和太路東入ル元町 381-2 Tel: 075 746 4456 Fax: 075 746 4457

プレスリリース 展

三島喜美代

2017年5月2日（火） - 5月28日（日）

開廊：火 - 土 + 5月14・28日（日）10:00AM - 6:00PM

対話：三島喜美代（作家） x 秋元雄史（東京藝術大学大学美術館 館長・教授）

5月13日（土）2:00 - 3:30pm 要予約

レセプション：5月13日（土）4:00 - 5:30pm

三島さんのつくった新聞や雑誌はひどく人間臭いのさ。ひとつひとつが、「あっ、すいませんねえ！」とか「こんちは！」とか、語りかけてくるみたいだよ。一冊一冊、一缶一缶が、そわそわと自分の居場所を探していたりしてね。とても人のような存在感を放つんだ。

秋元雄史

（東京藝術大学大学美術館 館長・教授 / 金沢21世美術館 特任館長 / 美術評論家）

この度現代美術 艸居では三島喜美代展を開催致します。初個展となる今展では、1975年から今展初発表となる最新作まで17点を展示致します。

三島は情報化時代において、情報に埋没する怖さを、絵画に新聞、ビラを使ったコラージュで表現していましたが、1971年以降からは、活字や印刷物をシルクスクリーンで陶器に転写し、割れるという「怖さ」を三島の不安や危機感と重ね合わせて立体作品で表現するようになります。割れるゴミ、割れる新聞、割れる印刷物などアメリカの消費社会を模倣しながら急成長していく日本社会を背景に、三島が“現代”に感じる恐怖や不安をよりリアルに、そしてユーモラスに作品に表現しています。

1975年に制作された作品5点のうち4点は今展が初公開となる作品です。割れない陶器を模索していた頃の作品で、2000度で焼成された作品は、ぶつかると鉄のような音がし、実際は薄く作るので結局は割れてしまうという、陶器の性質からは切り離せなかった作品です。残りの1点、*Film '75* はインスタレーションの作品で、三島が、夫、故三島茂司（みしましげし）氏を35mmフィルムで撮影し、陶器にシルクスクリーンで転写したものです。

ギャラリーを入ると一番に目に飛び込んでくるのは、三島の代表作の一つである、ゴミ箱。いろいろな時代を投影した90の空き缶がランダムに積み上げられ、三島が意識する“現代”を絶妙に表現した作品です。これは三島がゴミの作品を制作するきっかけになった作品で、ある日、飯場で工事のおじさんたちが飲み終わったコーヒー缶を次々にゴミ箱に捨てているのを見て、“これや”と。



現代美術 艸居

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2 Tel: 075 746 4456 Fax: 075 746 4457
その他、Sunkist, Battery, Postpak などの箱のシリーズ、つついワイヤーをぎゅっと

持ってリサイクルに出してしまいそうな *Newspaper*, 漫画を夢中で読んでいる人が目に浮かぶ *Comic Books* などが並ぶ。人を驚かす意外性が面白いと語る三島作品の集大成だ。

ウィンドーには今回初挑戦となる、陶器で作ったワレモノ注意の札, *Work-F-A/B* が天井からぶら下がる。本展が三島の 42 年の軌跡をたどるとともに、日本が歩んできた消費、氾濫する情報社会を振り返り見るきっかけになると幸いです。

1934 年大阪に生まれる。大阪市、土岐市で制作。1950 年頃、洋画家、伊藤継郎に師事。1965 年シェル美術賞受賞。1974 年ファエンツァ国際陶芸展金賞受賞、1975 年第 11 回現代日本美術展佳作賞受賞、1988 年現代陶芸展金賞、2001 年第 19 回現代日本彫刻展 山口県立美術館賞・市民賞と賞歴を重ねる。1986 年ロックフェラー財団奨学金によりニューヨークへ留学。パブリックコレクション：国立国際美術館、東京都現代美術館、兵庫県立美術館、ベネッセアートサイト直島、京都国立近代美術館、原美術館、ファエンツァ博物美術館(イタリア)、エバーソン美術館(アメリカ)、The First National Bank of Chicago (アメリカ)、アジア・カルチュラル・カウンシル(アメリカ)、韓国ソウル芸術院美術館(韓国)、オロット美術館(スペイン) など多数。

三島喜美代展は 5 月 2 日 (火) から 5 月 28 日 (日) まで、現代美術 艸居 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2 にて展示。開廊：火から土、5 月 14・28 日 (日) 10:00AM - 6:00PM

展覧会に関するお問い合わせは、藤田篤実 atsumi.fujita@gallery-sokyo.jp
プレスに関するお問い合わせは、井澤葉子 izawa@gallery-sokyo.jp 又は 075 746 4456 までお願いします。